

2018 年度金沢大学教職大学院フォーラム

「人が人をつくる」

ただ今ご紹介に与りました金沢大学教育担当・理事副学長の柴田です。

本日、第3回金沢大学教職実践研究フォーラムを開催するに当たり、本来ならば、学長の山崎光悦がご挨拶すべきところ、やむをえざる事情で欠席いたしますことをまずお詫び申し上げます。

本日は、休日にも拘わらず、たくさんの方々にご参加頂き、まことに有り難うございます。なかでも、石川県教育委員会教育長 田中新太郎様にはわざわざご祝辞を賜りました。心よりお礼申し上げます。

平成28年度に開設した金沢大学教職実践研究科も、本年度で3年目を迎え、第2期の修了生15名を送り出すことができました。

本日、午前中の研究発表では、大学院1年16名にはポスター発表で、また、修了生はラウンドテーブル方式でその成果を発表してもらいました。県・市の教育委員会指導主事ならびに附属学校長の皆様には、多くのご指導、ご助言を頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

本日の全体会では、とくに、昨年度の修了生2名から、教職大学院で学んだことが現場でどのように生かされているかについて紹介をしてもらい、修了生を含めた「大学院の学び」のフォローアップを主な目的といたしました。

また、講演会では、例年とは異なり、教職大学院立ち上げに関わった初代研究科長の田邊先生に、最終講義を兼ねて記念講演をしていただきます。

さて、児童虐待やいじめの問題など、昨今の日本の教育事情は混迷を極めている、と言っても過言ではない状況です。そのような時に、全国で鳴り物入りで開設された教職大学院が果たすべき役割とは何でしょうか。

教職大学院は、大学での講義や演習をふまえながら、1年間に及ぶ学校実習など、学外の現場を実体験させる「理論と実践の往還」によって問題解決力を養う点に特色があるとされています。

しかし、その「理論と実践の往還」は、いたずらに指導技術の細部を磨くことももちろん大切ですが、それよりも重要なことは、「人が人をつくる」という教育本来の根本に常に立ち返る、というところにその真骨頂があるように思います。

例えば、AI やロボットが人間の職場を奪うのではないかと懸念されている現在、それらはいくまで「道具」であって、「道具」を使う「主人公」ではない、ということを経験に据えた教育が必要なのではないでしょうか。「企業や社会がこういう人材を必要としているからそういう人材を育成する」、ということも大事ですが、それよりも重要なのは、人間はそもそも「何かのため」に存在しているのではなく、他のすべてのものが人間のために存在しているのだ、という視点であり、それを揺るぎなく掲げ続ける教育ではないでしょうか？

一方で、人間は人類進化の結果として、常に子どもたちに教育を施さねばなりません。もし教育という大事業を何世代かに渡って完全に放棄したら、人間は恐らく人類以前の類人猿に戻ってしまうでしょう。人間の本質は、本能を超えた知識や科学や文化の中にこそあるからです。

われわれは、教育から逃れることはできません。

したがって、それを常に実践し続けねばならないという運命を背負っています。

少し偉そうな言い方になってしまいました。

申し訳ありません。

本教職大学院は、大学と県内の学校とのネットワークの形成を広く展開することが特色です。そのためにも、県や市町の教育委員会との連携が不可欠となります。

今後とも、現職教員派遣をはじめ、4月に発足する「教育課程連携協議会」の設置など、教職大学院の組織運営にかかわる協働的展開に是非みなさまのご理解とご協力をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

平成31年3月2日

金沢大学理事（教育担当副学長）

柴田 正良